

# 西播磨地域の



# 高校生防災サミット

西播磨地域の高校生防災サミット  
— 若者目線で考える地域の防災・減災活動 —



## 目 次

1. 開会あいさつ	1
2. 各高校の防災体験等の報告	2 ~ 4
3. 非常食 試食体験コーナー	5
4. 各グループ討議の発表	6 ~ 8
5. サミット宣言文	9
6. 各高校の防災活動・学校紹介	10 ~ 15
7. 記録写真	16 ~ 17
8. 講評	18 ~ 19
9. 参考資料	20

## 当日プログラム

日 時	平成29年12月10日（日）10:00 ~ 15:00
場 所	西播磨文化会館（たつの市新宮町宮内 458-7）
主 催	西播磨地域ビジョン委員会・兵庫県西播磨県民局

### 【第1部】

オープニング・防災体験等の報告 <10:00~11:55>

- 開会あいさつ 西播磨県民局長 東元良宏
- 議長校選出 議長登壇あいさつ 龍野高校 木村朱里
- 各高校の防災体験等の報告

### 【休 憩】

昼食（非常食試食体験） <12:00~12:45>

### 【第2部】

ワークショップ <13:00~13:45>

### 【第3部】

発表・サミット宣言・講評 <13:50~15:00>

- 来賓紹介
- 各グループ発表
- サミット宣言発表
- 講評 西播磨県民局副局長 北本 淳
- 議長降壇あいさつ
- 閉会あいさつ



## 開会あいさつ

西播磨県民局長 東元 良宏

今年、初めての試みとして「西播磨地域の高校生防災サミット」を開催します。企画にあたったのは、西播磨地域ビジョン委員会の生活安全推進チームの皆さんです。

ビジョン委員会では、西播磨地域を将来どのような地域にしていくかを話し合っただけでなく、将来像、夢を描き、その実現に向かって活動しています。この生活安全推進チームはその中の一つで、「安全・安心」をテーマに活動しています。チームでは、「高校生が考える防災・減災」をテーマに、各高校の防災・減災活動の取り組みについてヒアリングをさせていただくため、事前に皆さんの高校へお伺いしたのではないかと思います。

地域の課題として人口減少、少子高齢化があります。その中であっても、将来に向かって夢を持てるよう、元気な地域づくりが必要です。

兵庫県でも地域創生の取り組みにより、子育てがしやすい社会や働く場所をしっかりと作り、他の地域から人が移住してくる地域づくりを進めています。しかし、安全・安心でなければ住めません。生活のベースになるのが安全・安心の取り組みだと考えています。

近年、地震など自然災害が多発し、多大な被害を与えています。災害は防ぎきれないものもありますが、備え方によっては被害が軽減されます。減災という考え方ですが、防災・減災に、高校生の皆さんが積極的に取り組まれていることを非常に心強く思っています。

西播磨県民局も今年度から管内の高校に出前講座の形で取り組みをしていますが、高校でも既にしっかりとした取り組みをされていることを嬉しく思っています。会場内にも各高校の防災活動のパネル展示をしていただいています。素晴らしい取り組みをされていると思います。

今日の防災サミットを契機として防災意識を更に高めていただき、安全で安心な西播磨地域を作っていただければと思います。若い人達のパワーを発揮され、今日の防災サミットが有意義なものになることを期待しています。

# 各高校の防災体験等の報告

## 龍野北高校

- ・本年9月9日に全日制、定時制合同で「地域拠点型合同防災訓練」「広域避難所運営訓練」を行った。
- ・訓練では、救助ヘリの実演、土嚢づくり、援護者搬送、倒壊家屋からの救出、応急処置、避難所開設、仮設住宅設営、激流体験、炊き出しなど自衛隊・消防・たつの市・地域の方々の協力を得て幅広く専門的な訓練を行った。
- ・例年夏休みに「東日本大震災復興支援ボランティア防災ジュニアリーダー」に参加している。この活動には生徒会長、副会長が参加している。
- 3日間の「防災ジュニアリーダー」で学んだ事は、「一番危ないのは大地震でも津波でもなく自分の気持ち、油断する事が災害における命の明暗を分ける」という事。活動として石巻市立大川小学校を訪問したり、現地の高校生と交流会を実施した。
- ・昨年8月には全日制、定時制併せて17名が熊本地震復興ボランティアを行った。現地小学校で革細工の動物マスコットを作成してプレゼントした。現地の高校生との交流では意見交換し有意義な時間を過ごせた。地震後の心のケアについても講話を聴いた。
- ・その他、被災復興支援として募金活動も行っている。



## 龍野高校

- ・災害には人の力ではどうしても防げない「自然災害」と人の力によって未然に防ぐことのできる「人為災害」がある。火災は人為災害であり、人の努力によって未然に防ぐことができる。
- ・通学途中、偶然火災に立ち会い、消火活動と人命救助を行った孝本慎之介君の体験報告。
- ・火災現場で茫然とする近所の人達に消火器の使い方を教え、冷静に消火活動を行い室内にいたお婆さんを救助した。
- ・なぜ冷静に対処できたか？ 幼い頃から継続して防災活動に参加していた経験が役に立った。
- ・火災は毎日の生活を送る中でほんの少し気を付けるだけで未然に防ぐことができる。しかし、もし目の前で火災が起きたら、被害を最小限に抑えるためにも日頃からの準備と訓練が必要。
- ・自然災害について自分自身や大切な人達を守る為にも防災について深く考え、取り組むことがとても大切だと思う。



## 千種高校

- ・千種町は宍粟市の北西部に位置し人口約3千人、37%が高齢者、高齢者のみの世帯は18%、独居老人が14%を占める地域。
- ・課題は少子化高齢化が進む中、要援護者を援護できる若者が少ないこと。
- ・若い人達を中心に災害に向き合う事。その中心に高校生も加わる必要を感じている。
- ・過去の千種町の災害事例(2009年の豪雨災害、1963年の大水害)を踏まえて過去に「ハザード模型」「仮設住宅建設」「炊き出し訓練」を行った。昨年行った宍粟市防災訓練では、男子生徒が土嚢を作り、女子生徒は非常食の配食など炊き出しを行った。地域の消防団などと一体となった活動を行った。
- ・今年7月には防災士の出前講座を受けた。
- ・12月7日には校内防災訓練を行った。Jアラート発令時のシェイクアウト訓練と火災発生時の避難訓練を行った。
- ・防災訓練やイベントなどで得た知識を地域の大人や子供に伝えていくこと。
- ・過去の災害を今に活かし未来に伝えること。
- ・実際に災害が起きた時には高校生の行動力を活かして地域の方と共に活動することが大切。



## 太子高校

- ・本年度は「防災うちわ」を作成、配布しながら、「うちわ募金」を呼びかけた。
- ・表面には防災に関する標語、裏面にはイラストを描いた「防災うちわ」を作成した。
- ・「うちわ募金」の活動目的は①小学生、地域の人との交流を図る。②地域の防災意識向上を図る。
- ・活動は石海小学校とコラボで実施した。

【アクション1】・「うちわ募金」の趣旨を本校生徒、石海小学校児童に伝え、不要なうちわ390本を集めた。

【アクション2】・7月に生徒会役員、美術部員、石海小学校児童会合同で5種類の「防災うちわ」300本を作成した。

テーマは①非常持ち出し袋等備えに関するもの②防災訓練に関するもの③とっさの判断に関するもの④避難場所の確認に関するもの⑤近所の声掛け助け合いに関するもの。

【アクション3】・8月2日午前中、マックスバリュー太子南店前で生徒会と石海小学校児童会が地域の方々に「防災うちわ」を配布し、熊本地震・九州北部豪雨被災地支援募金活動を行い、50,050円の募金があった。

【まとめ】今回の活動を通して、小学生と「防災うちわ」を作成し集まった募金を被災地に贈ることができた。交流を深め、「防災うちわ」を配ることで地域全体の防災意識の向上を図ることができた。



## 相生高校

- ・相生市では市をあげて挨拶運動に取り組んでいる。生徒会メンバー約20名が月1回始業前の7時から相生駅で地域団体と一緒に挨拶運動を行っている。地道な活動が評価され昨年度、相生市から表彰され兵庫ジャーナル8月号でも取り上げられた。
- ・地域の挨拶運動は防犯意識や災害が発生した時のコミュニケーション作りに大きく貢献する。
- ・相生湾の干潟が減少した為、絶滅の危機にある「シバナ」の再生にも協力している。
- ・運動部員が「光明山」に堆積している砂を土嚢に詰めるボランティア活動に参加し、土嚢1150袋を作った。土嚢はシバナの花を咲かせる事業に役立っている。

作業の際、地域河川の状態を目の当たりにし河川の氾濫など防災意識を感じた。

- ・相生高校では毎年「総合防災訓練」を実施している。兵庫県南西部に地震が発生した事を想定した避難訓練。火災発生を想定した消火器訓練を行い、災害が発生した際、自助、共助、公助の防災行動が出来るように訓練した。「AED」の取り扱いについても講習を通じて誰もが対応できるように説明を受けた。

常に自分の事として行動できる事がまわりの人の命を大切にすることに繋がると学んだ。



## 県立大附属高校

【日本の災害について】・スイスの保険会社が発表した世界の危険な都市ランキングを紹介。東京・横浜(第1位)、大阪・神戸(第4位)、名古屋(第6位)と世界的にも自然災害のリスクが高い。

【県大附属高校の防災活動】・毎年附属中学校と合同で避難訓練を実施している。11月には火災を想定した避難訓練を実施して防災意識を高めている。

- ・学校の近くには「西播磨広域防災拠点」があり、1年生は防災教育の一環として施設見学を行っている。
- ・防災サミット参加にあたり全校生対象にアンケート調査を行った。
- ①災害にあった時、家族との安否確認方法は？②家に防災バッグがあるか？③災害用伝言掲示板を知っているか？④寮に防災バッグがあるか？回答結果は何れも低く、今後は生徒会を主体として防災意識を高める運動をしていく必要があると感じた。

【海外の防災について】毎年、タイ、韓国、オーストラリアの高校と交換留学を行っている。今回、それぞれの国の防災について調査を行った。

- タイでは洪水の被害が大きく、防災対策は洪水対策。
- 韓国では台風や水害の被害が大きいが、日本のように学校で避難訓練を行うような対策はない。
- オーストラリアでは洪水の被害が大きく、水没した道路を直ぐに復旧する等災害対策が充実している。
- 火災に対する消火対策も充実している。

【今後の実施計画】・附属高校内の危険箇所、AED、消火栓、消火器の置き場所を記入したハザードマップを各クラスに掲示する予定。



## 相生産業高校

### 【相生産業高校の紹介】

- ・機械科2クラス、電気科1クラス、商業科2クラスの専門学校で生徒約600名が通学。
- ・地元産食材を使った「柚子ミソポン」や「あいおもアイス」は地元団体と協同で商品化し販売している。
- ・機械科では、「銅鐸」を製作し、技術的に高い評価を受けた。

【防災の取り組み】2012年～2014年の3年間、釜石市の釜石商工高等学校を訪問し、瓦礫の分別作業やフィールドワークを通じ被災地支援活動を行った。

- ・東北訪問で学んだ事に「釜石の奇跡」がある。普段から防災教育と防災訓練が徹底して行われていた。3原則は「想定にとらわれるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ」

【昨年度と今年度の取り組み】について、昨年度は東南海津波を想定した高台避難訓練を実施。自衛隊と消防署の指導で、応急担架作りや段ボールベッド設営、スコープによる瓦礫内探査、土嚢積み体験をした。今年度は校舎内垂直避難を行い、その後、防災アドバイザーによる講演を拝聴した。

【成果と課題】初めて津波を想定した垂直避難訓練を行った。実体験の有無で有事の対応が変わってくる。釜石の教訓を活かし普段から訓練が大切だと思う。今回の垂直避難訓練は高台避難が困難な場合を想定したもので有意義だった。課題は、有事の際の状況は訓練の時とは異なる。状況の変化に対応できる能力を身に付ける必要がある。又、土嚢積み体験など実際に体験したのは一部の生徒だったので残念だった。想定にとられず最善を尽くして率先避難者たる為の意識付けをどのようにするかが大きな課題。



## 赤穂高校定時制課程

- ・赤穂高校定時制課程は生徒数51名のアットホームな雰囲気のある学校である。
- ・「赤定防災」の特長は①防災学習②ボランティア活動③学校行事が連携していることである。

### 【本年度の取り組み】

- ・7月の「防災教室Ⅰ」では、赤穂防災士の会の指導により避難所運営ゲーム(HUG)を行った。赤穂高校の見取り図を使って避難所シミュレーションを実施し、トイレやペットが大きな問題になる事を知り、友達の意見を尊重しながらチームワークで解決する事の大切さを学んだ。
- ・9月には今年で3度目となる東北復興支援ボランティアを実施。気仙沼市災害公営住宅では、瓢箪の絵付け教室を開催し現地の人達と交流を行った。阪神淡路大震災の教訓を生かし、高齢者との交流に務めた。気仙沼高校定時制課程では、「赤穂の塩ストラップ」作りを行い交流した。
- ・交流ボランティア活動の他にも、東日本大震災についても学習した。津波災害の遺品を見ながら津波の凄まじさや災害に備える事の大切さも学んだ。

実際に被災地に行き、肌で感じて記憶を風化させない事も防災の取り組みの一つだと思った。

現地に行ってみると被災地の復興はまだまだ進んでおらず、復興支援はこれからも必要だと感じた。

- ・11月は「防災教室Ⅱ」で実践的な知識・技能を学んだ。アルファ化米の試食、ポリ袋クッキング、段ボールベッドやイスの製作、紙を折って作る食器、ロープワークを実践した。

### 【今後の取り組み】

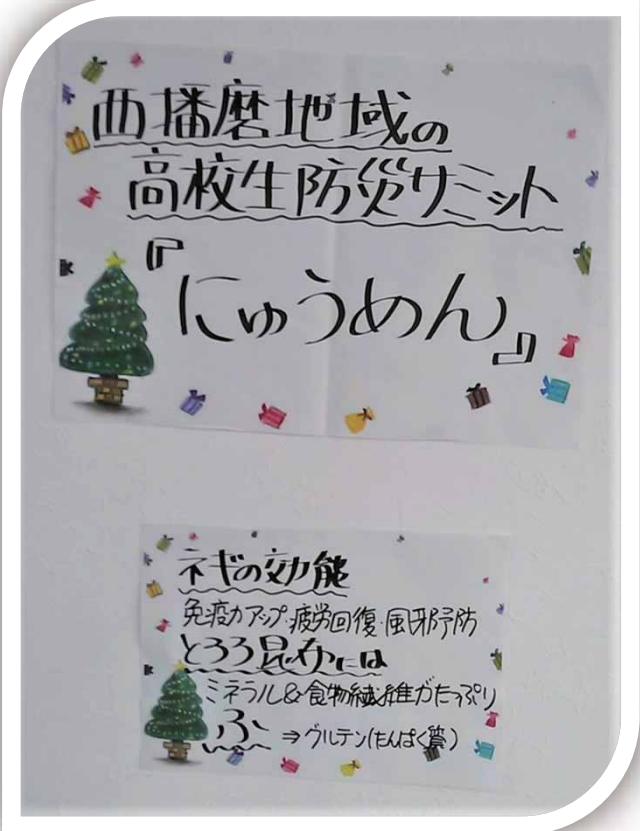
- ・12月14日の義士祭では「赤定防災カフェ」を開設する。ブースでは、「防災教室」で学んだポリ袋クッキングや紙食器作りを活用し、来店した方に楽しく防災を学んで頂く場をしたい。
- ・3月には「3.11絆ラーメンを味わう集い」に参加し震災の記憶を風化させない活動を行いたい。



# 非常食 試食体験コーナー



地元の保存食材を活かしたメニューです



# グループ討議の発表

## 1 グループ

「個人でできる事」と「周りとの連携が必要な事」の2つに分けて話しあった。

### 1)「個人でできる事」

①防災についての知識を持つ事。防災について知識がなければ何も行動できないので、自分でインターネットやTV等を通じて防災についての知識を付けておく事が必要。②防災バッグの常備をしておく。災害はいつ起こるか分からないので、いざという時の為に備えておく。③避難経路の確認をしておく。事前に安全な避難ルートを調べておく。ホテルなどに宿泊した時も火災などに備えて避難ルートを確認しておく。④体力づくり、地域の防災訓練に参加する。⑤自宅の家具を固定する。⑥沢山の人に声を掛けて避難する。

### 2)「周りとの連携が必要な事」

①地域と共同の避難訓練。②ハザードマップの作成。③被災者の体験を聞く。④地域の人達と緊密な関係を築く。少子高齢化により、地域には沢山の高齢者がいる。災害が発生した時は、自分達若い世代が高齢者を助けられるように日頃から挨拶などを行い、より緊密な関係を築く事が大切だと思った。

### 3)【まとめ】

①他人任せにせず高校生も動く(高齢者の救助支援等)  
②地域の方と連携を密にする(普段からのコミュニケーション作りが大切)  
③事前準備が大切(防災をしっかりしておく事や実際に災害が起きた時にどうするか知識がないと救助する事もできない)



## 2 グループ

「学校で出来る新しい取り組み」をテーマに話し合った。

1) 今回のサミットで印象に残った事は自校の防災意識の低い事とアルファ化米の味が想像以上だった事。  
2) 今回のサミットでもっと知りたい事は他の防災食も食べてみたい。ボランティア内容について、土嚢の使い道はどのような事があるか？アンケートでの他の項目の結果。冷静な判断をする為にどうしたらよいか。私達ができる新しい取り組みは、一番身近で出来るのが、学校のAEDの場所や非常ベルの場所の確認。

消火器やAEDの使い方の体験活動を年に1回開くなど。  
ボランティア募金活動で太子高校のような「防災うちわ」を作ってみたい。被災地訪問、配給をしてみたい。  
土嚢を作ってみたい。幼稚園から大人まで地域一体とする訓練。防災訓練の時に救助ヘリを呼びたい。消火器・消火栓の使い方。本格的な災害の訓練など。応急処置訓練をしてみたい。

### 【まとめ】

今回のサミットを通して、他の高校がどんな防災意識を持って、どんな取り組みをしているのかを知る事ができた。  
今日、いいなと思ったり、やって見たいなと思った事を自分の学校で実際にやってみて、又、こういう場でやってみた感想を話し合っ、又改善していく事で、西播磨全体の防災意識を高める事ができるのではないかと思う。





### 3 グループ

#### 【一番心に残った事】

学校によっては避難訓練などの防災行事がない。相生方面の高校だと津波に対する訓練があったり、千種方面だと水害に対する訓練で、**防災にも地域性がある**という事を感じた。実際に体験する事で、災害を身近に感じる事ができる。どの高校においても**地域とのつながりを大切に**していくという意見が多く出た。

#### 【もう少し聞いてみたい事】

募金を行った時に例えば5万円位だったとすると、それはどの位の価値があるのか？ どのような事に使われるのか？ 被災地でどの位のお金(金額)でどのような事ができるのだろうか？ という疑問があった。消火器や防災グッズを使ってみたり、手元に置いてみたい。気持ちはあるが、使い方が分からない。どこに売ってあるのか知らない。AEDは記載(校内全体図)されているが、消火器は余り記載されていない。

#### 【自分はどう行動したいか】

防災行事への参加、学校では参加しやすいが、防災訓練は寒い時期に行う事が多いので個人で行くのは寒いから行きたくないという思いもある。しかし、今回の発表を聞いて、個人で防災行事に参加してみようとか、防災グッズを買ってみようとか購入してみようとか、意欲的にボランティアに参加してみようとか、高齢者との関わりを増やして災害が発生した時は高齢者を支援したいと思った。又、家の周りの地形など事前に知識に入れておく事で、仮に災害が起きても、するべき事など冷静に対応できると思う。



### 4 グループ

【防災について私達ができること】について話しあった。

#### 【印象に残った事】

龍野高校の火災現場に立ち会ってお婆さんを助けた話と千種高校の地域の人との防災訓練が印象に残った。

まとめると「高齢者を守る社会が出来ている」

#### 【自分達にできる事】

助け合いとして高齢者の人々に声を掛け合う事。

まとめると「地域で協力し、知識を深める事」

#### 【自分から広めて行くには】

災害について沢山知ってもらおう事で訓練の大切さを知ってもらおう事。

まずは自分から、余裕があれば軽く周りに声を掛けてみたい。

まとめると「過去の事を今に活かし伝える」「地域と学校の連携が不可欠」という意見になった。



### 5 グループ

【防災と私たち】をテーマに話し合った。

#### 【印象に残った事】

①第1部で各高校の防災活動を聞き、もっと災害について考えるべきだと思った。

②各高校がその地域に合った防災訓練を行ったり、被災地へ足を運んだり、ボランティア活動を行って防災意識が高い事が分かった。

#### 【学び考える事】

地元での災害が起きやすい場所を把握する事や、人々が防災グッズを用意しなければならないと思うような活動を考えていきたい。

#### 【これから出来る事】

①災害が発生した時のために、日頃から地域の方々と挨拶をしてコミュニティ作りを普段から進めていきたい。

②もし、災害が起きた時の為に日頃から挨拶をして地域との交流を作る。日頃からの交流が、もしもの時に助け合える仲間となる。人とのつながりが必要だと思う。

③災害が起きる前に、防災グッズを用意しておく事や、避難ルート、応急措置の方法を学び、地域の人々に伝える事が大切だと思った。

結論は、人とのつながりを大切にし、防災意識の向上を図る事が大切だと思った。



## 6 グループ

### 【個人でできる防災】

勇気ある行動をする。冷静な判断をする。そこから考えられた課題が、災害が起きた時に早く慌てず行動するにはどうするか？高齢者の多い地域で災害が起きた時に若い人の救助はどれだけ必要か？という課題を見つけた。そこから、冷静に迅速に行動する為に訓練を通して間違った知識を覚えないようにする。知識よりも勇気ある行動こそ救助に必要である。災害時に若者が高齢者を助けるなどの解決方法を考えた。

### 【団体でできる防災】

倒壊した家の救助訓練、救助ヘリなどで救助する方法、仮設住宅の建設トリアージタグを使った訓練。各高校の知識や技術を生かして、その高校にしかできない事をする。訓練で学んだ事を実際に使えるようにする。学校での防災意識をもう少し高めるべきだと思った。

### 【まとめ】

- ①様々な訓練を取り入れ各科で習得した事を社会活動で学び、学んだ事をどのように活かして行けるかを考える事が大切で、自分達ができる一番簡単な方法はハザードマップを作る事だと思った。
- ②学校でできる防災訓練等では、限界があるので個人的に災害への備えをしたり、防災について深く考える事が大切だと思った。



## 7 グループ

### 【高校生のできる事】をテーマに話し合った。

各々の学校の防災訓練の質を上げる。

その為には一人ひとりが参加できる訓練コーナーを作る事を考えた。AEDの訓練をしたり、身近な事でも私達にできる事があるはずなので、それを体験し災害時に自らが率先して行動できるようにしたい。又、校内だけでなく、災害が起きた時は、地域の人との関わりも必要不可欠なので、訓練の時点で地域の人と一緒にする事を考えた。一人ひとりが体験や訓練に関わる事で一人ひとりの防災意識が向上し、防災訓練の質を高める事ができると思う。私達高校生にできる事を活かして災害時に備えたいと思います。



## 8 グループ

### 【災害時の救助について】話し合った。

#### 【ここに残った事】

災害が起きた時に役立つ防災グッズを持っている人が少ない。避難所での対応で段ボールで色んな物が作れる。

災害時の救助訓練、「釜石の奇跡」によって防災訓練の大切さを知った事など。

#### 【もう少し聞きたい事】

救命の優先順位やその決め方、災害時自分だけの状況で、溺れている人を助ける方法。

今後、西播磨地域で災害が発生した時にどのような支援を受けられるのか？

非常食の中でアルファ化米以外に何があるのか？については、少量で美味しくカロリーのとれる栄養缶や乾パン、ビスコも非常食である事が分かった。

第1部で県立大附属高校の報告にあった「防災備蓄倉庫」についてもう少し詳しく聞きたいという問いに対する答えは、非常食2万6千食を始め県下でも3番目に多くの貯えがあるそうです。ヘリコプターでの救助訓練の際、何を体験したのか？という問いに対する答えは、生徒は見学していたという事です。

#### 【これからの行動】

地域の防災活動やボランティア活動を知り、積極的に参加する事や、自分には関係ないと思っていた事への意識の向上。自分より他者を大事にする事をこれからの行動に反映して行こうと考えた。

#### 【まとめ】

色んな学校で違った取り組みを行っていた。その違いを利用して互いに連携を取りながら災害に対策していく事が大切だと感じた。又、周囲の人との助け合いを災害対策として行う事により地域の活性化にも繋がると思った。



## 西播磨地域の高校生防災サミット宣言文

本日、西播磨地域9校の高校生がここ西播磨文化会館に集まりました。

私たちの住む「西播磨」は比較的、災害が少ない地域と言われていますが、過去には、台風や局地豪雨による洪水、土砂災害により甚大な被害をこうむった事もあります。

きょう、第1部では、それぞれの学校で行われている防災活動や体験報告を聞き、第2部のグループ討議で「地域の防災・減災活動」について学び合いました。

このサミットを通じて、西播磨地域の過去の災害事例を学び、伝え、日頃から防災意識を高め、情報を共有化し、災害から一人でも多くの尊い命を守るため、日頃から備える努力を怠らない決意をここに宣言します。

- 1. 私たちは、各地域の過去の災害について学び、「災害の記憶の風化」を防ぎ、地域の防災意識向上に務めます。
- 2. 私たちは、これから先、発生するであろう自然災害に備える為、災害の仕組みや対策方法について学習します。
- 3. 私たちは、助けられる人から助ける人となる自覚を持ち、災害発生前、発生時、被災後の支援活動に参加します。

以上

平成29年12月10日 議長 龍野高校 木村朱里



# 各高校の防災活動・学校紹介



太子高校の取り組み



佐用高校の取り組み

## 県立伊和高等学校

### 教育の特徴

小規模校の特徴を生かしたきめ細やかな指導や充実した「キャリア教育」、地域と連携した体験学習活動やボランティア活動を通して、生徒一人一人を大切に、「ふるさと内蔵」を笑える人材を育てています。

年度	定員	男子	女子	合計
平成29年度	200	100	100	200
平成28年度	200	100	100	200
平成27年度	200	100	100	200
平成26年度	200	100	100	200

**就職希望者の8割以上が地元企業・事業所への就職**

伊和高生は地域の一員としての自覚を持ち、少しでもふるさと内蔵が元気にふるさとして、地域の方々とともに頑張っています！

### 地域連携

地域連携活動の一環として、地域の企業・事業所と連携し、体験学習やボランティア活動を行っています。

### インターンシップ

インターンシップを実施し、地元企業・事業所との連携を深めています。

伊和高校の取り組み

## 県立千種高等学校の取組

### 防災意識向上に向けた取組 ～高校生にできること～

#### 過去から学び未来へと向かう防災学習の推進

昭和38年(1963年)7月11日、千種町は未曾有の大水害に見舞われ、町の中心部が水没した。以来50年、語り継がれてきた経験もいつの間にか薄れようとしていた。本校は、数年前から地域と連携した防災訓練を行い、水害・土砂災害への対応を中心に「過去から学び未来へと向かう防災学習」に取り組んでいる。

1963年 千種高校付近



2009年 佐用の水害



### 千種町立体ハザード模型の製作

平成25年度に千種町の洪水・浸水被害を想定し、学校と地域住民が連携して防災意識の啓発を進めるための方法として、町中心部の立体模型を製作した。現在、災害啓発パネルと共に校内に展示し、千種町の「711」を忘れぬようにと広く呼び掛けている。

#### 立体ハザード模型の製作




### 地域連携総合防災訓練を実施

平成25年11月23日、地域連携総合防災訓練を実施した。避難所に指定されている千種高校体育館を舞台に、住民の誘導訓練・応急処置訓練・炊き出し訓練、被災後の生活復興訓練として木造仮設住宅を地域の支援を得て作り、「被災一災害対応一生活復興」の行動モデルについて考える契機とした。



**千種の「711」を語り継ぎ、  
防災・減災をめざします！**

### 栄光市総合防災訓練

平成28年11月6日、地域住民と高校生が中学校のグラウンドに集まって災害が起きた時の対応を演習に行った。女子は非常食の準備をして配給し、男子は土嚢作りと設置を行った。演習に災害が起きた時の対応をリアルに体験することで、非常時にパニックになることなく行動ができるように心がけることができた。



土嚢作り



非常食の配給



地震体験



消防体験

### 防災教育出前講座

平成29年7月13日、防災教育出前講座を行った。防災士の方による防災教育を受けさせていただいた。災害時に自分を守り、誰かを救済できるように備え様々な災害について多くの知識を持ち防災減災に取り組めるように学ぶことができた。



防災士の方による講座



三角巾作り



防災士の方による講座



消防体験

### 校内防災訓練

平成29年12月7日に校内防災訓練を行った。Jアラート発令を想定したシェイクアウト訓練と、火災を想定した避難訓練を実施した。訓練放送を聞いて生徒全員が速やかに行動し、教室からグラウンドまで3分で全校生が避難完了した。



シェイクアウト訓練



避難訓練

机の下にもぐって身を守っている様子



シェイクアウト訓練



避難訓練

グラウンドに避難している様子

千種高校の取り組み

### 兵庫県立龍野高等学校学校紹介

#### 特色ある取り組み

**スーパーサイエンスハイスクール (SSH)**

2007年度から2011年度まで、5年連続で「スーパーサイエンスハイスクール」に選定された。これは、全国的にトップレベルの科学教育を行う学校として、文部科学省から選定される。本校は、この選定に5年連続で選ばれている。これは、全国的にトップレベルの科学教育を行う学校として、文部科学省から選定される。

**卒業生による特別講座・キャリア教育**

卒業生が、母校で特別講座やキャリア教育を行う。これは、卒業生が、母校で特別講座やキャリア教育を行う。これは、卒業生が、母校で特別講座やキャリア教育を行う。

**国際交流**

海外との交流活動を行う。これは、海外との交流活動を行う。これは、海外との交流活動を行う。

**サイエンス活動**

サイエンス活動を行う。これは、サイエンス活動を行う。これは、サイエンス活動を行う。

**国際交流**

国際交流を行う。これは、国際交流を行う。これは、国際交流を行う。

**特別講座**

特別講座を行う。これは、特別講座を行う。これは、特別講座を行う。

### 龍野から世界へ 龍野高校のSSH

～地域研究から世界に活躍する研究者育成を目指して～

**総合自然科学課題研究**

総合自然科学課題研究を行う。これは、総合自然科学課題研究を行う。これは、総合自然科学課題研究を行う。

**関東・関西・中大研修**

関東・関西・中大研修を行う。これは、関東・関西・中大研修を行う。これは、関東・関西・中大研修を行う。

**台湾海外研修**

台湾海外研修を行う。これは、台湾海外研修を行う。これは、台湾海外研修を行う。

**普通科課題研究**

普通科課題研究を行う。これは、普通科課題研究を行う。これは、普通科課題研究を行う。

**特別講座**

特別講座を行う。これは、特別講座を行う。これは、特別講座を行う。

**特色ある授業**

特色ある授業を行う。これは、特色ある授業を行う。これは、特色ある授業を行う。

**小高連携の特色**

小高連携の特色を行う。これは、小高連携の特色を行う。これは、小高連携の特色を行う。

**SSH卒業生で育つ力**

SSH卒業生で育つ力を行う。これは、SSH卒業生で育つ力を行う。これは、SSH卒業生で育つ力を行う。

### 新舞子干潟におけるスナガニ類の生態

～舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態～

**調査目的**

舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。

**調査方法**

舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。

**結果**

舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。

**結論**

舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。これは、舞子干潟の生態系におけるスナガニ類の生態を調査する。

### Research of Soy Sauce which Hardly Gets Dark

～Aiming for Maintaining a Vivid Color!～

大豆醤油の発色を維持するための研究

**背景**

大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。

**目的**

大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。

**方法**

大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。

**結果**

大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。これは、大豆醤油の発色を維持するための研究を行う。

龍野高校の取り組み

### 「高校生防災サミット」 県立相生産業高等学校の取り組み

～震災から学ぶ～

**1 相生産業高等学校について**

- 機械科(各学年2学級)
- 電気科(各学年1学級)
- 商業科(各学年2学級)

総員600人が通学

**2 相産広報チーム「TPIAS」(ティピアス)**

各種イベントへの参加

大ちゃん祭

地元の団体と協同で商品開発

初牛の旨みゼシフォンケーキ

粗工がさめし

**特色ある活動紹介**

**① マスコットキャラクター アイさん**

アイさん

**② 相産広報チーム「TPIAS」(ティピアス)**

各種イベントへの参加

相生産業高校の取り組み

### 東北訪問から学んだこと 「釜石の奇跡」

釜石市を訪ねて学んだこと

**3 昨年度と今年度の取り組み**

～高海・東海トラフの地震による津波を想定した避難訓練～

約1km先の高台に避難

自衛隊・消防署の協力

**① 今年度 校舎内垂直避難**

校舎4階へ

防災アドバイザーによる講演

成果と課題

実体験により 有事に対応

釜石では普段から訓練していたから避難できた

実際は状況が変わる 安全性の確保が重要

体験できたのは一部の生徒

釜石市は高台避難ができない時のやむを得ない措置

### 3 銅鑄製作

薄い銅鑄製造に成功

相生市の中学校に社会科の教材として寄贈

BSフジ「ガリレオX」に出演

「ガリレオ」

釜立考古博物館に国宝の青銅器とともに展示

**2 過去の取り組み**

岩手県釜石市を訪問

2012～2014(3年間)

生徒交流

＜釜石商工高校と＞

**フィールドワーク**

釜石市を訪問

釜石市を訪問

釜石市を訪問

**がれき分別作業**

がれき分別作業

**漁業支援活動**

漁業支援活動



山崎高校の取り組み



赤穂高校定時制課程の取り組み

# 県立龍野北高校

## アクションプラン

◎ 本校での取り組み

＜防災訓練＞

- ・幅広いジャンルの訓練
- ・地域の団体と合同
- ・自衛隊の方々に実演

＜科目・特色・部活動＞

- ・防災体験
- ・防災学習
- ・避難経路実演
- ・防災学習
- ・避難経路実演
- ・避難経路実演

＜阪本復興支援ボランティア＞

- ・空襲時の避難所についてのビデオ視聴
- ・総合的避難所の清掃
- ・避難所から実演
- ・避難所の使用小学校や中学校へ避難所を貸出
- ・避難所での避難体験
- ・避難所での避難体験
- ・避難所での避難体験

＜緊急活動＞

- ・校内での活動
- ・スピーチコンテスト
- ・避難所の見学
- ・インターアクティブプログラムの設置

⇒ これら活動

＜現状＞

- ・避難の仕方が分かっていない
- ・緊急感を持っていない(結果も同じ)
- ・避難経路を理解していない

＜内容＞

- ・生徒や一部の先生には訓練と事前研修を併せていきなり実施する。避難訓練と併せて

＜目的＞

- ・緊急事態にいちいち正しい行動・判断がとれるようになる
- ・先生も生徒も普段からの防災意識を高める
- ・リーダーシップをとることでできるまで
- ・避難経路を認識する
- ・防災の基礎知識を身につける

＜自分達で考えて＞

- ・防災知識を高める
- ・避難経路の確認しておく
- ・万が一、ケガをした人への対応や、ヘルプの状況
- ・火災現場には近づかないようにする



龍野北高校の取り組み

# 防災教育活動

県立上都高等学校

- 1年生防災教育** 2015年1月9日
- 防災ジュニア合宿** 2015年7月20日
- 救命講習会** 2015年7月27日
- 熊本地震募金** 2016年4月26日
- 緊急避難訓練** 2017年11月1日

上都高校の取り組み

# 兵庫県立大学附属高校について

学校紹介

避難訓練

1年 防災訓練

内容

- ・避難訓練
- ・防災体験
- ・消防士の体験
- ・避難訓練の振り返り

感想

学校が防災に力を入れていることが、避難訓練を通じてよく分かった。避難訓練を通じて、避難の大切さや、避難の仕方を知ることができた。また、消防士の体験を通じて、消防士の大変さや、消防士の仕事を知ることができた。避難訓練を通じて、避難の大切さや、避難の仕方を知ることができた。また、消防士の体験を通じて、消防士の大変さや、消防士の仕事を知ることができた。

学校が防災に力を入れていることが、避難訓練を通じてよく分かった。避難訓練を通じて、避難の大切さや、避難の仕方を知ることができた。また、消防士の体験を通じて、消防士の大変さや、消防士の仕事を知ることができた。

相生高校の取り組み

県立大学附属高校の取り組み



# 各高校の参加者(引率者含む)



相生高校



相生産業高校



赤穂高校定時制課程



伊和高校



龍野北高校



県立大学附属高校



太子高校



龍野高校



千種高校

# 記録写真 1/2



開会あいさつ(西播磨県民局長)



議長選出(龍野高校 木村朱里さん)



各高校の防災活動・学校紹介展示コーナー



各高校の防災体験等の報告



地元食材を活かした防災食を試食



# 記録写真 2/2



「赤穂防災士の会」の防災展示を体験



グループ討議



ご来賓の皆様



グループ討議の発表



「高校生防災サミット宣言」を採択(木村議長)



## 講 評

西播磨県民局副局長 北本 淳

熱心な議論の中で、さきほど立派なサミット宣言を採択していただき有難うございました。

私ごとであります。県庁で防災部局に8年間勤務しておりました。東日本大震災の際は南三陸町、熊本地震の際は益城町に赴き、災害支援を行いました。そういう経験も踏まえて感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

1 グループは「個人で出来ることと周りとの連携が必要なこと」というテーマで話し合ってくださいました。事前に避難路を確保するなど、日頃からの準備が必要だという意見がありました。例えば皆さんの教室にも必ず出入口が2つあると思います。イザという時に逃げる箇所がどちらかに有る。これをフェールセーフ、リダンダンシーと言います。これは、仮に一方が使えなくなっても片方は使える仕組みです。皆さんも避難経路や避難場所を考える時には1つではなくて、2つ3つ、場合によっては4つ5つのパターンを考えておいてください。

2 グループは「学校で出来る新しい取り組み」というテーマで話し合ってくださいました。防災食のこと、AEDや非常ベル位置の明確化、それと他の高校の取り組みが良く分かったと言う意見がありました。皆さんは午前中、高校ごとに発表していただきましたが、午後からは横断的に色んな高校の方と一緒に意見をお交わされたと思います。こういう機会が大切だと思っています。

3 グループは「心に残ったこと」というテーマで話し合ってくださいました。防災にも地域性があるという意見がありました。例えば相生だと津波という意見がありましたが、西播磨県民局管内では、大地震が起きても津波が2時間後くらい、しかも2～3メートルという想定です。津波も大事ですが、家屋倒壊などで被害を受けられた方の救助に重点を置いた方が現実的で良いかと思います。また、防災行事の参加で冬の時期が多いというご意見がありました。出水期を過ぎた冬場の比較的災害の少ないであろう時期に行われるというのが一般になっています。これは、私ども行政も工夫する余地はあると思います。貴重な意見をいただきました。

4 グループは「印象に残ったこと」で、高齢者を守る社会が出来ている、地域で協力して知識を広めることなど、非常に大切なことですが、過去のことを今に活かして伝えるという貴重なご意見もございました。

5 グループでは、「防災と私たち」というテーマで話し合ってくださいました。

地元の災害の起きやすい場所を把握しておく。コミュニティづくりを日頃から進める必要がある。日頃から挨拶をしてイザという時に、顔の見える関係を作るということは非常に大切なことです。

6 グループは「個人でできる防災」というテーマで話し合ってくださいました。高齢者が多い中で若者たちの役割をどう見つけて行くかということで、防災知識と訓練が大切だという意見がありました。ハザードマップ作りの大切さという貴重なご意見をいただきました。

7 グループは「高校生に出来ること」というテーマで話し合ってくださいました。各々の学校の訓練の質を上げるという意見や地域との連携、役割が大切だという意見がありました。

8 グループは「災害時の救助」というテーマで話し合ってくださいました。色々な防災グッズや、段ボールを活用したグッズもある。救命の優先順位、トリアージの大切さ、災害の際にどんな支援メニューがあるか、私達が受けられる支援メニューも知っておく必要があるという意見がありました。

全体を通して、地域と学校の連携が大切ということ、地域コミュニティを作っていく為に、日頃から挨拶をして顔の見える関係を作っておくということが大切だということが多くのグループの意見だったと思います。

ところで、一点だけお願いがあります。今日、皆さんは災害時に支援者・救済者としての立場で意見を交わされたと思います。自分は被害を受けていないという前提で、いかに避難者を助けるか、若者がいかに高齢者を助けて行くのかの見方が中心だったと思われれます。それは非常に大事なことではありますが、視点を変えていただいて、高校生の皆さんも被災者になる場合があります。被災者で場合によっては避難所から学校に通いながらも、若者の力を発揮してどのような支援者としての役割が出来るのか、そういうところも、今後もう一步踏み込んで考えていただければ、皆さんの若い力が期待できる場面がやってくると思います。

いずれにしましても、今日のことは、皆さんにとっても私達にとっても非常に参考になる貴重な経験になりました。今日は色々と意見交換してサミット宣言を作ってくださいました。今後こういう場を作って意見交換したいなど皆さんの積極的な意見がありましたら、本日はビジョン委員の皆さま方のお力添えでこういう場が設定できましたが、県民局としましても、引き続きビジョン委員さんも含めて何らかの形で皆さんのご意見、ご要望を受けてこういう場を是非とも今後も継続していきたいと思っています。

本日はありがとうございました。

# 高校生の意見紹介コーナー



これは、「高校生の防災サミット」当日、各グループにアンケートをお願いしたものを項目別に纏めたものです。今後の防災・減災活動の参考にして頂ければ幸いです。

## 1、今日「高校生防災サミット」に参加して一番印象に残ったことは？

- ・意識の低さに気づけた。
- ・防災にも地域性があることを知った。
- ・実際に体験するということが災害を身近に感じられるということ。
- ・地域の繋がりを大切にしているということ。
- ・防災訓練がない地域もある。
- ・多くの学校が防災についてたくさんの意見を持っていたこと。
- ・各高校が、ヘリを用いた救助訓練や地域と連携した訓練を行ったり、被災地へ足を運びボランティア活動を行っていて、防災意識が高いと感じた。
- ・冷静な判断や勇気ある行動の大切さ。

## 2、これから私たちが学び、考えることは？

- ・過去の災害について知り、同じ過ちを繰り返さないこと。
- ・現場に出会ったときの対処。
- ・災害経験の少ない人は、防災意識が低い。
- ・災害を身近なものとして考える。
- ・少しでも多くの防災についての知識を学んで、こどもたちに伝えていく。
- ・地元の災害が起きやすい場所を把握すること。
- ・「人々が防災グッズを用意しなければならない」と思えるような活動を考案していきたい。
- ・学校での防災意識を高めるためには、
- ・高齢者のために若者ができることは、
- ・実際に災害が起こったときに、私たちが自ら行動するために、防災について理解を深めること。
- ・災害時、家族との待ち合わせ場所をどうするか、どこに避難するかを考える。
- ・災害時に受けられるサービス（非常食、支援、消防）について知っておく。

## 3、私たち高校生がこれから行うことは？

- ・地域の人との交流を深め、いつでも連携できるようにする。そのためには積極的にあいさつをする。
- ・AED、消火器、非常ベル、避難経路の確認。
- ・過去から学び、今に生かし、未来に伝える。
- ・地域との交流を図る（学校、個人間）。普段から近所の結びつきを大切に。
- ・まず、自分が住んでいる地域のことを知る。
- ・個人での防災活動への参加（ボランティア等）。
- ・まだ持っていない防災についての知識を少しでも多く知ること。
- ・災害が起こる前に防災グッズを用意しておくことや、避難ルートや応急処置の方法を学び、地域の人々に伝えることが重要。
- ・ハザードマップの作成、防災グッズの常備。
- ・学んだことをどのように活かしていくか考える。
- ・間違った情報を見極める。
- ・防災訓練に実践的な訓練を組み込んで、防災意識を高め、行動力を身につけること。
- ・自分より他者（周りの人や近所の人）を大切にする。

## 4、その他

- ・知識が増えるとできることが増える（でも知識がただあるだけじゃ意味がない）
- ・防災行事への参加の意識、底上げ。
- ・身近な体験談を聞いたとき、どれだけ自分のことだと思って受け止められるか。

以上

## ■ まとめ

私たちは西播磨地域の安全安心な社会の実現を目指し「人口減少に備えて地域の特性を活力とし安全安心に暮らせる社会を築く」をコンセプトに第8期の活動を始めました。

「高校生の考える防災・減災活動」をテーマに平成28年8月から太子高校の「内閣府防災教育チャレンジプラン」の支援、11月から龍野北高校、12月には佐用、山崎高校を訪問し高校の防災・減災活動についてヒアリングを行いました。ヒアリングを行ううちに、西播磨管内の公立高校生が一堂に会して「若者目線で考える地域の防災・減災活動」をテーマとする「高校生防災サミット」を開催することをチーム会議で決定しました。

平成29年2月から具体的な検討作業を開始し、4月以降各高校を訪問し開催趣旨説明と参加依頼を行いました。以降38回に及ぶ調整、準備作業を経て12月10日の「西播磨地域高校生の防災サミット」開催に至りました。

当日は管内12校の公立高校の内、9校62名の高校生の皆さんに参加頂きました。あいにく、学校行事で参加出来なかった学校も「防災活動・学校紹介」パネル展示コーナーには、全校が出展され好評でした。

製作指導に当たって頂きました各高校の先生方、休日にも関わらず参加頂きました生徒会を中心とする生徒の皆さん有難うございました。

チームとしても所期の目的が達成できたことを大変嬉しく思っています。

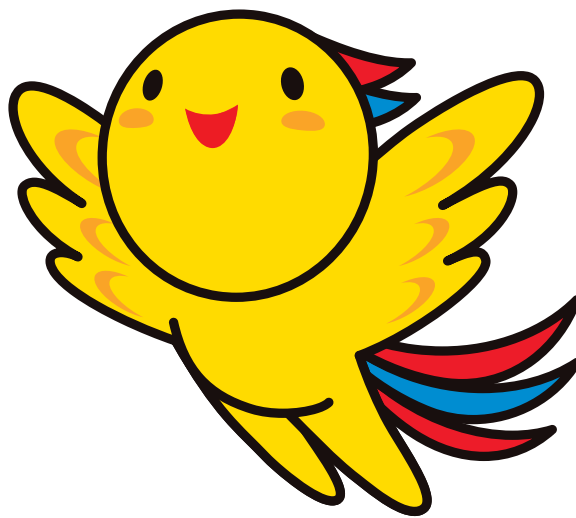
末筆ながら、今回の企画に対し深いご理解のもと、ご支援頂きました兵庫県手延素麺協同組合、たつの市、太子高校写真部、龍野高校放送部、赤穂防災士の会の皆さま有難うございました。

又、前日の会場設営、当日の会場、調理場、駐車場担当を快く引き受けて頂きましたビジョン委員会の仲間の皆さまご協力有難うございました。

厚くお礼申し上げます。

編集：第8期西播磨地域ビジョン委員会  
生活安全推進チーム編集員

チームリーダー 田野本満男  
サブリーダー 坂元 淳  
サブリーダー 萩原 芳一  
赤木 和雄  
鳴澤 清美  
西側 禎男  
森下 高明  
原井 誠



西播磨地域ビジョン委員会 事務局  
兵庫県西播磨県民局 県民交流室 県民活動支援課

場 所：〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都 2-25  
TEL：0791-58-2115 FAX：0791-58-0523